

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

平成15年度 第30回 総会 報告

日時：平成16年3月26日（金）

午後1時～4時

会場：コープ・イン・京都

総会プログラム

開会

- 1 会長挨拶
 - 2 議長・副議長・書記選出
 - 3 議案審議
 - 1) 平成15年度活動報告
 - 2) 平成15年度会計・監査報告
 - 3) 平成16年度活動方針
 - 4) 平成16年度事業計画
 - 5) 平成16年度予算
 - 6) 役員改選
- ～ 小 憩 ～
- 7) 平成15年度会長・事務局長承認

閉会

議長：中村 雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

副議長：若杉 亜矢（松下記念病院）

書記：小川 香（耳原総合病院）

総会員数：126機関

出席：30機関

委任状：68機関

合計：98機関（会員の2/3以上の数をみたし総会成立）

議案Ⅰ．平成15年度活動報告

はじめに

平成15年度、会長は中村充男社会保険神戸中央病院院長から清水聡京都南病院院長に交替し

た。幹事も若い世代が半数を占め、今年度の当協議会の運営は次世代への交代過程として各事業を進めた年であったといえよう。

継続事業のうち教育研修活動では、実務を中心とする勉強会を1回、定例の研修会を3回開催した。このうち、2003年9月5～6日の京都における第102回研修会は、昨年度と同じく2日間のセミナー形式で開催した。テーマのひとつ「患者アドボカシー」では、清水聡氏（京都南病院院長）や和田ちひろ氏（HCRM 研究会代表幹事）を講師として招き、病院の患者支援活動として注目されている患者アドボカシーと図書館サービスの関係について、その可能性を探った。また、「文献検索システムの新しい動向」では、国内文献データベースサービス提供元の松田真美氏（医学中央雑誌刊行会）や森田歌子氏（科学技術振興機構）、ユーザー側の奥出麻里氏（JFE 健康保険組合川鉄千葉病院図書室司書）を講師に招いた。また、2004年2月5日の第103回研修会は「文献検索のスキルアップ」をテーマとしてデジタルハリウッド大阪校で開催し、参加者が実践的に学ぶ機会を設けた。また、2004年2月25日には国立国会図書館関西館への見学会、3月26日には第30回総会とともに例年どおり「事例研究報告会」を第104回研修会として開催する。

出版広報活動では、会誌『病院図書館』23巻1号～4号を季刊発行した。連載や報告記事の他、特集記事として「図書館の自己PRに役立つ知識」「最近の医療情勢と近畿病院図書室協議会の動向」「外国雑誌とその周辺」および「サマーセミナー2003」の報告を組んだ。なお、2003年秋に新旧部員の大幅な交替があり、実質新しい編集部体制となった。また、年間4号分を発行したが、昨年度末からの発行遅れが尾を

引いて、年度内に発行遅れを取り戻すことはできなかった。協議会ホームページや案内小冊子については、十分な更新や発行には至らなかったが、来年度からは専任の担当者をおいて対処すべきであろう。

医学文献情報活動では、昨年度から取り組んだ「医学雑誌総合目録」の改訂作業を今年度も継続した。会員のデータ収集は2003年の8月で打ちきり、併行して進めた外注委託によるデータ入力完了を10月末としていたが、予定が大幅に遅れ、2003年末に所蔵データの入力が完了する結果となった。現在、東海地区医学図書館協議会【東海目録 2002】の書誌データと照合しながら、会員が分担して更新作業を進めている。また、年次統計等の調査活動では今年度は簡易調査年に当たり、2004年2月上旬、会員へ報告書を配布した。

対外交流に目を向けると、日本医学図書館協会とは総会への出席、会員の文献相互貸借、研究会での発表など従来どおりの交流を進めた。また、その地区会である近畿地区医学図書館協議会とは地区例会へのオブザーバー出席、シンポジウムの共催などで緊密に交流している。その他、日本病院会の全国図書研究会への後援、あるいは病院図書室研究会や各地区の病院図書室ネットワークとも、それぞれ会誌交換や寄稿などの交流があった。

さらに、一昨年度から始まった京都大学大学院医学研究科と当協議会との「EBM 情報システム・ワーキンググループ活動」も関節リウマチ診療ガイドラインの編集や大学院教育での文献検索で協力した。なお、2003年7月に京都府立医科大学で開催された医学情報サービス研究大会の開催に当たっては、当協議会会員からも数名が実行委員として協力し、多くが大会に参加したことを付記しておく。

I-1-1 研修部

【第18回勉強会】

開催日：2003年8月13日（水）

【午前の部】10：00～12：00

場 所：星ヶ丘厚生年金病院

テーマ：病院図書館員の初歩

講 師：研修部

参加者数：16名（講師を含む）

【午後の部】13：30～17：00

場 所：星ヶ丘看護専門学校

テーマ：PowerPoint の使い方

講 師：三好晶子（「パソコン広場」）

参加者数：24名

会 費：各々500円

【第102研修会】サマーセミナー2003

日 時：2003年9月5日（金）～6日（土）

場 所：コープ・イン・京都

会 費：会員2,000円 非会員2,500円

プログラム：

第1日

1. 患者アドボカシー活動における司書の役割

講師 清水 聡（京都南病院）

2. 【事例報告】患者さんへの医学・医療情報公開の実践

演者 藤井梨枝（福井県済生会病院）

3. 患者アドボカシーの役割とネットワーク～病院図書館との連携の可能性～

講師 和田ちひろ（HCRM 研究会）

4. スモールグループワークショップ

小テーマ1) 新医師臨床研修制度

2) 病院機能評価

3) EBM と病院図書館員

第2日

1. 医中誌 Web Ver.3 について

講師 松田真美（医学中央雑誌刊行会）

2. JST の新しい動きー固定制の今後と新しいシステム JDream

講師 森田歌子（科学技術振興事業団）

3. 【図解 PubMed の使い方】改訂のポイント

講師 奥出麻里（JFE 健康保険組合川

鉄千葉病院)

参加者数：延べ30名（うち会員外2名）

[平成15年度近畿地区医学図書館協議会（他）シンポジウム]

日 時：2003年12月3日（水）13：50～17：00

場 所：関西医科大学

テーマ：1）医療とコミュニケーション

2）電子ジャーナルの利用と管理

参加者数：39名（うち病図協会員15名）

[第103回研修会]

日 時：2004年2月5日（木）10：00～17：00

場 所：デジタルハリウッド大阪校

テーマ：文献検索のスキルアップ

会 費：会員1,000円 会員外1,500円

プログラム：

1. 医学情報流通の最近の動向

講師 小田中徹也（国立京都病院）

2. UpToDate の効果的利用について

～検索実習

講師 橋本 剛（ユサコ株式会社）

3. 医中誌 Web・JDream 検索実習

参加者数：31名（うち会員外3名）

[国立国会図書館関西館見学会]

日 時：2004年2月25日（水）10：30より

（現地集合）

場 所：国立国会図書館関西館

参加者数：15名

[第104回研修会] 事例・研究報告会

日 時：2004年3月26日（金）10：00～12：00

場所：コープ・イン・京都

プログラム：

1. 臨床研修必修化に伴う情報源の整備

－現状と課題－

首藤佳子（星ヶ丘厚生年金病院）

2. 当院における図書業務の取り組みについて

小川 香（耳原総合病院）

3. 図書室開設準備の一年

渡邊朋子（京都桂病院）

4. 病院医学雑誌と図書館員

重富久代（京都市立病院）

5. 病院機能評価にむけて図書室改善のとりくみ

塚本誠子（刈谷総合病院）

参加者数：38名

今年度は研修会を3回、勉強会を1回行った。その中で第102回研修会はサマーセミナーとして二日間にわたって開催した。また、昨年度は都合で開催されなかった近畿地区の医学図書館協議会によるシンポジウムが再開された。

その他の行事としては以前より開催が望まれていた国立国会図書館関西館の見学会が実現した。

今年度の主テーマは昨年同様、文献検索をはじめとしたパソコンを使いこなすためのものとなった（第18回勉強会午後の部、第102回研修会二日目、第103回研修会）。

新しいテーマは第102回研修会第一日目で取り上げた「アドボカシー」である。病院図書館像の将来を見つめ直す機会となればと思い取り上げたが、病院図書館員が医学・医療情報のエキスパートとなり、その存在をアピールできる機会となるのではないかと思えた。

サマーセミナーでは今回もスモールグループワークショップを行ったが、全員が何か発言し、それぞれの意見を尊重してグループをまとめてゆくという過程自体がよい経験となったのではないかと思う。どのグループも活発な議論が行われ、それぞれ興味深い発表につながった。

勉強会は午前と午後に分けて一日を使った。新しい担当者のための内容を午前中に行い、午後には昨年から続けている、スキルアップのためのパソコン習熟を目指しての内容となった。会場に星ヶ丘厚生年金病院の図書室を提供していただき、見学会を兼ねることができた。

近畿地区医学図書館協議会のシンポジウムに

は、研修部より実行委員として1名参加し、当日の参加も数多くあった。会場の都合で定員オーバーとなり、参加できない会員がでたことは残念であった。

全体として総括すると、今年度の研修部の活動としては、昨年同様サマーセミナーに重点を置いたものになった。昨年と同じく開催回数は少なかったが、それぞれの研修会での参加者数をみれば30名以上になっているので、一応の責務は果たしたのではないかと考える。内容についての評価はアンケートをとったわけではないので不確かではあるが、聞き及ぶ限りでは概ね好評であった。

研修部の担当以外の研修活動としては、第20回情報サービス研究大会が7月12～13日に京都で開催された。この大会には当会会員から、大会事務局長、実行委員などとして参加し開催にあたっては深い関わりを持った。当日の参加状況を見ると病院図書館関係者も多く、盛会であったことを報告しておく。

また、勉強会をきっかけとして、有志での勉強会が行われたことも付記しておく。こうした、自主的な勉強会が各地で行われるようになれば会員相互のコミュニケーションを図る上でも有効であろう。

事例・研究報告会での演題の応募は募集期限内には今回も少なかった。結果、演題集めに苦慮することになった。発表することがスキルアップにつながるということを考えて発表の場を活用して欲しいが、なかなか自発的な声が出がってこないのが実情である。定期的に開催されるものであるので、次年度に向け今から準備するくらいの気概をもって取り組んで欲しい。

今年度の研修部は研修部員も増え、新たなメンバーを中心に活動したが、協議会会員であることを自覚するためにも積極的に研修部活動へ参加してもらい、今以上の充実を期待したい。

2003年度の研修部員は以下のとおりである。

部長：林 伴子(社会保険神戸中央病院：幹事)

部員：神田智香子(宇治徳洲会病院：幹事)
安東 正子(姫路赤十字病院：幹事)
亀井真由美(阪和記念会館)
田中 文字(済生会兵庫県病院)
中村 雅子(大阪府立母子保健総合医療センター)
永井 保子(大阪府済生会泉尾病院)

I-1-2 会誌編集部

1. 活動報告

今年度は会誌22巻1号～4号を発行した。配布部数は、213部(会員122、講読会員68、交換7、寄贈16)、印刷部数は各号300部である。

掲載内容企画について、各号毎に編集会議を行い、編集方針に基づき企画発行することができた。

(1) 会誌内容概略および発行日

23巻(2003年)

1号(発行 2003年6月6日 40頁)

特集：図書館の自己PRに役立つ知識
イントラネットを利用した自己PR
文献検索のレクチャー(医中誌 Web の効果的利用法)
印刷のための画像知識
知っておきたいプレゼンテーション10ヶ条
寄稿：病院図書館員認定資格のための必要条件

2号(発行 2003年9月2日 73頁)

小特集：最近の医療情勢と近畿病院図書室協議会の動向
医学図書館から医療図書館へ
研修会参加者動向分析
会誌編集の醍醐味
総会記念講演：治療困難となった癌患者に対する緩和ケア病棟の役割
第100回研修会座談会

3号(発行 2003年12月18日 44頁)

特集：外国雑誌とその周辺

電子ジャーナルの効果的サービスのために
外国雑誌の流通と価格

エルゼビアの雑誌と電子ジャーナル

「購読雑誌に関するアンケート」結果報告

紹介：サンメディア Web オーダーシステム
Neoplanets の紹介

VI. (Vol.23 No.3)

VII. (Vol.23 No.4)

「目からうろこ?!」

4. (Vol.23 No.1)

4号 (発行 2004年2月16日 39頁)

特集1：患者アドボカシー

アドボカシー活動における司書の役割

患者さんへの医学・医療情報公開の実践

患者アドボカシーと病院図書館

特集2：ワークショップ

臨床研修制度における図書館の役割

病院医療機能評価

EBMと病院図書館員

講演：インターネット時代の医学・医療情報
とライブラリアンの役割

講演：臨床における情報収集

(3) 掲載広告各社：

サンメディア

ユサコ

ベルブック

丸善

厚生社

丸善e-プロダクツ部

科学技術振興機構

医学中央雑誌刊行会

インフォトレーダー株式会社

ナカバヤシ

南江堂

(4) 編集会議：

第1回 2003年4月19日 京都

第2回 2003年6月14日 京都

第3回 2003年9月21日 京都

第4回 2003年11月1日 京都

第5回 2004年1月10日 京都

(2) シリーズ掲載

「いますぐ役立つホームページ」

15. 妊娠中の投薬とそのリスク (Vol.23
No.1)

16. 国立がんセンター (Vol.23 No.3)

「相互貸借のための便利ノート」

13. 略語 (Vol.23 No.2)

14. 複写申込書 (Vol.23 No.4)

「What's EBM？」

9. 「平均への回帰」の落とし穴 (Vol.23
No.1)

10. 「代表的な意見」とは何か？ - 「237万人」と「2万人」 (Vol.23 No.2)

11. 「バイアス」勢ぞろい (Vol.23 No.3)

12. 新薬の治験：落とし穴チェックの総まとめ (Vol.23 No.4)

「ちょっとこぼれ話」

IV. (Vol.23 No.1)

V. (Vol.23 No.2)

2. 次年度編集方針

今年度は部員が大きく入れ替わり、若い世代になった。部員は編集のみならず図書館員としてまだまだ経験が浅く、会誌編集部として課題は多くあるが、同時に多くの可能性もあると考えている。現在、会誌の発行が遅れ会員のみなさまにはご迷惑をおかけしているが、部員全員で力を合わせて編集部の活動を軌道に乗せていきたい。

編集方針としては、協議会機関紙として、あくまで会員に資することを第一目的として会誌をつくっていく。誌面づくりにおいて、理論面をおろそかにすることはしないが、まず会員の実務に即した、会員の関心の高いテーマや内容をとりあげたい。またより多くの会員に積極的

に原稿の執筆を依頼し、会員全体のスキルアップの一役を担いたいと考えている。

シリーズ掲載については「相互貸借のための便利ノート」が終了し、種々のデータベースを解説する「電子資料解題」(仮題)がスタートする。「いますぐ役立つホームページ」「What's EBM?」「ちょっとこぼれ話」は継続する。

今年度は会誌に落丁があったが、今後は印刷所との連携を密にして、このようなことのないようにしたい。

3. 部 員 (2004年3月現在)

部 長：増田 徹 (藍野学院短期大学)

部 員：井澤 智子 (松阪中央総合病院)

井上智奈美 (三菱京都病院)

寺澤 裕子 (関西労災病院)

藤井 梨枝 (福井県済生会病院)

松尾 知香 (石切生喜病院)

若杉 亜矢 (松下記念病院)

協力員：前田 元也

I-1-3 統計調査部

「図書室統計調査報告書の発行」

1. 調査対象期間：平成14年度 (2002年4月～2003年3月)

2. 調査項目：図書室統計

3. 作業経過：2003.8. 4 調査用紙を発送
(125施設)

2003.9.30 回答締切日

2004.2.10 報告書の発送

4. 回答施設 (回答率52%)

5. 文献の相互利用—協議会全体での件数—

—申込— (65施設)

協議会会員	6,417件	19%
会員以外の病院	3,205件	10%
大学図書館	12,594件	37%
文献手配業者	10,572件	31%
その他	1,142件	3%
合 計	34,034件	100%

—受付— (65施設)

協議会会員	8,093件	64%
上記以外の病院	4,112件	33%
その他	383件	3%
合 計	12,588件	100%

経費：107,900円

備考：今年度の調査は簡易版の調査報告であった。

I-1-4 目録編集部

「医学雑誌総合目録2003年版」の編集

「医学雑誌総合目録1997年版」の改訂版として2003年版の編集作業を、平成13年度事業の準備期間を経て、平成14年度から会員機関のデータ収集などの実作業に入った。

2003年1月現在の所蔵データの提出期限を2月中としたが、4月1日現在での未提出機関は26機関であった。

4月以降の目録編集作業の経過は次の通りである。

2003年4月 データ未提出機関へは更に提出を促しながら、(株)サンメディアにて1997年版データとのマッチング作業を開始した。

2003年7月 会員122機関のうち105機関からデータが提出された。加盟機関一覧の編集作業を平行して開始した。

2003年12月 10月完成予定の和・洋雑誌の書誌データおよび和雑誌の所蔵データ入力は2ヵ月遅れて完成。目録編集部と幹事有志、事務局長の協力作業にて、会員書誌データと東海書誌データ^(注)との照合作業の準備を行った。(於：国立京都病院)

2003年12月～2004年1月 目録編集部にて、和雑誌の会員書誌データと東海書誌データとの照合および修正と、所蔵データの点検を完了した。(株)サンメディアにおける洋雑誌の所蔵データ入力が終了後、会員書誌データと東海書誌データとの第一段階の修正を完了した。

2004年2月 洋雑誌の会員書誌データと、東海書誌データとの第二段階の照合と修正作業を、

会員有志に分担して作業の協力を依頼した。
2004年3月 「医学雑誌総合目録 2003年版」
収録データに関する作業を完了する予定であ
る。発行形態は IT 時代に即した CD-ROM
版および Web 版とする。

「医学雑誌総合目録 2003年版」は平成13年度
の作成準備期間を経て、編集作業は14年度、15
年度の2年間に及んだ。作業期間の遅れは会員
機関からのデータ提出完了までの期間が長引い
たこと、それに伴う提出所蔵データの修正、(株)
サンメディアでの作業行程の大幅な遅れが要因
であった。「現行雑誌所在目録 2002年版、2003
年版」は作成していないので、早急に発行した
い。

(註) 東海データ：東海地区医学図書館協会にて
「東海目録 2002」作成時に、当協議会が提供
した「医学雑誌総合目録 1997年版」の書誌
データを更新された。今回「医学雑誌総合目
録 2003年版」には「東海目録 2002」の更新
された書誌データの提供を受けた。

I-1-5 会員業績 (当協議会内関係での発 表は除く)

【口演発表】

- (1) 首藤佳子
医療の中の図書館－病院図書館の果たす
べき機能と課題－
INFOSTA シンポジウム2003－情報サー
ビスソリューションに向けて－ (東京)
2003. 6. 20
- (2) 小田中徹也
PubMed 検索：ワンポイントレクチャー
京都府立医科大学 EBM ワークショップ
「文献検索プロジェクト」(京都)
2003. 6. 25
- (3) 山室真知子 (京都南病院)
病院図書館の地域開放
第6回読書コミュニティフォーラム全国

大会 (福島・郡山)
2003. 8. 22

- (4) 小田中徹也 (国立京都病院)
PubMed - MeSH Database の使い方
第3回 CASP ワークショップ@広島 (広
島)
2003. 8. 23-24
- (5) 首藤佳子 福永隆三
臨床研修必修化に向けた病院図書室のあ
り方－整備すべき資料と情報源－
第41回日本社会保険医学会総会 (仙台)
2003. 10. 20～21
- (6) 大橋真紀子
図書室業務における院内 LAN の活用
第41回日本社会保険医学会総会 (仙台)
2003. 10. 20～21
- (7) 小田中徹也 (国立京都病院)、奥出麻里
(JFE 健康保険組合川鉄千葉病院)、及川
はるみ (聖路加国際病院)、河合富士美
(同右)、首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
Evidence-Based Medicine (EBM) ～医
学情報流通における費用負担の現状と課
題～
第40回情報科学技術研究集会 (INFORUM
2003) (東京)
2003. 11. 20-21
- (8) 山室真知子 (京都南病院)
病院図書室と患者図書室の現状
JMLA 第10回医学図書館研究会 (東京)
2003. 11. 20

【誌上発表】

- (1) 小田中徹也 (国立京都病院)、中山健夫
(京都大学)、福原俊一 (京都大学)
医学系大学院での EBM ワークショッ
プ：図書館員の参加とその効果
医学図書館, 2003 ; 50 (2) : 150-154.
- (2) 中山健夫 (京都大学)、福原俊一 (京都大
学)、小田中徹也 (国立京都病院)
新しい診療ガイドラインの作成とエビデ

ンスの調べ方

EBM ジャーナル. 2003 ; 4 (5) : 512-517.

- (3) 小田中徹也 (国立京都病院)
エビデンスと著作権 - 経済的側面からみた
学術情報
EBM ジャーナル. 2003 ; 4 (5) : 592-597.
- (4) 小田中徹也 (国立京都病院)
PubMed活用法 - 誰にでも使える文献検
索術 (1) : PubMed の登場と文献検索
EBMジャーナル. 2004 ; 5 (2) : 214-217.
- (5) 小田中徹也 (国立京都病院)
館種別図書館概況「病院図書館」: 近畿病
院図書館協議会
図書館年鑑 2002年版 日本図書館協会
p. 91-92.
- (6) 山室真知子 (京都南病院)
IT 時代の司書とは, 日赤図書館雑誌, 10
(1), 2003
- (7) 山室真知子 (京都南病院)
病院図書館の地域住民への公開, 全国患
者図書サービス連絡会会報, 10 (4), 2003
(投稿中)

I-2-1 幹事会

昨年同様、4回の幹事会を開き、会の運営にあたった。

- 第1回 (2003/4/25) : 京都南病院
第2回 (2003/7/17) : 住友病院
第3回 (2003/10/16) : 国立京都病院
第4回 (2004/1/22) : 住友病院

I-2-2 役員会

平成16年2月19日、京都南病院において平成15年度役員会が開催された。この会は会長司会の下、議事進行する予定となっていたが、都合により出席できず、急遽、事務局長が代理として司会を勤めた。

その結果、役員会資料 (平成15年度総会議案書草案) に沿って議事進行し、平成15年度の活動報告、会計報告を審議し、一部語句の修正を

加えて了承された。また、平成16年度の活動方針案、事業計画案、予算案についても、同様に審議され、追加訂正を加えて、総会に諮ることになった。

次に、平成16年度の会長については、清水聡現会長 (京都南病院院長) が再選され、事務局長には林伴子現幹事 (社会保険神戸中央病院図書室司書) が選出された。会則に法り、それぞれ今年度の第30回総会に諮ることになった。

I-2-3 会員の状況

会員数: 126機関 (平成16年1月現在)

入会: 5機関

内訳: 公立甲賀病院 (滋賀)、きっこう会多根病院 (大阪)、神戸総合医療介護福祉専門学校 (兵庫)、長野市民病院 (長野)、刈谷総合病院 (愛知)

退会: 1機関: 新日鐵広畑病院 (兵庫)

I-2-4 対外交流

日本医学図書館協会の第74回総会 (03/05/15-16 大阪: 近畿大学) へは、事務局長の小田中徹也と幹事の松本純子氏がオブザーバーとして出席し、役員や会員との交流を図った。また、第84回近畿地区医学図書館協議会例会 (03/06/24 兵庫医大) へは事務局長が出席した。ただし、第85回近畿地区医学図書館協議会例会 (04/01/19 奈良県立医大) へは日程の調整がつかず、当協議会からは欠席した。また、平成15年度近畿地区医学図書館協議会 (等) シンポジウム (03/12/03 関西医大) は従来どおり共催で協力し、幹事の安東正子氏に実行委員を委嘱した。なお、今後開催に伴う経費の要望があった場合、共催団体で均等負担する形で協力することにした。

また、診療ガイドラインの策定に関する京都大学大学院医学研究科との EBM 情報システム・ワーキンググループ活動は今年度も継続し、医学雑誌『内科』2004年2月号、等の論文上でも紹介された。さらに、日本病院会平成15

年度全国図書研究会 (03/09/12-13 横浜) の開催に伴う後援名義の使用と会員への案内も毎年の恒例となっている。

議案Ⅱ. 平成15年度会計・監査報告

(収入の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金	933,954	933,954	
会費	3,680,000	3,820,000	H15 × 123 = 3,690,000 H14 × 1 = 30,000 入会金 × 5 = 50,000 賛助会費 × 1 = 50,000
事業収入	569,500	585,000	
会誌購読会費	414,000	438,000	H15 × 66 = 396,000 H14 × 7 = 42,000
研修会費	107,500	126,000	第101・102・103回研修会参加費及び第18回勉強会参加費
その他	—	21,000	「病院図書館」売上げ
広告掲載料	452,000	376,000	サンメディア、他
その他	—	8	銀行利息
合計	5,635,454	5,714,962	

(支出の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	差引増△減	摘要
総会費	100,000	94,112	5,888	選挙・議案書費用 特別講師謝礼・交通費
事務費	100,000	88,386	11,614	封筒印刷費 銀行手数料、他
通信費	100,000	101,140	△1,140	事務局、各部会連絡、会員宛通信費
交通費	550,000	360,510	189,490	幹事会・各部会、他
事業費	4,100,000	3,697,438	1,402,562	
会誌発行費	2,600,000	2,259,248	340,752	会誌23 (1)(2)(3)(4) 印刷費・発送費・図書券、他
研修会費	400,000	330,290	69,710	第101回・102回・103回 研修会、第18回勉強会
総合雑誌目録出版費	600,000	0	600,000	
その他事業	500,000	107,900	392,100	年次統計報告書作成費、他
対外活動費	200,000	20,105	179,895	JMLA総会参加費・交通費
資料費	50,000	24,572	25,428	朝日新聞の用語の手引き 薬学図書館購読料
資料管理費	25,000	0	25,000	
会議費	150,000	114,023	35,977	会場使用料、他
予備費	180,000	60,420	119,580	デジタルカメラ購入費
雑費	32,454	0	32,454	
合計	5,587,454	3,560,706	2,026,748	

平成15年度 会計監査

単位 円

収入	金額	支出	金額
前年度繰越金	933,954	総会費	94,112
会費	3,820,000	事務費	88,386
事業収入	585,000	通信費	101,140
会誌購読会費	438,000	交通費	360,510
研修会費	126,000	事業費	2,697,438
その他	21,000	会誌発行費	2,259,248
広告掲載料	376,000	研修会費	330,290
その他	8	総合雑誌目録出版費	0
		その他の事業	107,900
		対外活動費	20,105
		資料費	24,572
		会議費	114,023
		予備費	60,420
		雑費	0
		翌年度繰越金	2,154,256
合計	5,714,962	合計	5,714,962

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成16年3月22日

田中 友雄
永井 保子

議案Ⅲ. 平成16年度活動方針 (案)

現在、医療費総枠抑制化の中で、病院医療は厳しい環境にある。しかし、臨床医学におけるEBMの浸透、患者への医学情報提供の拡大さらに学術情報における著作権問題など、病院図書館は幾つかの重要な課題を抱えている。また、病院図書館員は医療の分野で医学情報を担う唯一の専門家として、良質な医療に寄与することが望まれている。これに対応するため、当協議会ではさまざまな事業活動をこれまで試みてきた。今後も、この方針で活動を進めていくことが期待されていると信ずる。

ところで、「はじめに」でも述べたように今

年度は会長の交替をはじめとして、幹事の半数を新人若手が占めた。このことは各事業の運営にも影響し、とりわけ会誌編集部と研修部では特に顕著であったといえよう。さらに、来年度は長年携わってきた事務局関係の担当者も、第一線を退かなければならない。したがって、来年度は協議会活動の全般に渡って、現世代から次世代への橋渡しの年度として捉え、役員の方担あるいは協議会運営や事業活動において円滑に移行できるよう図っていきたい。

そこで、従来の継続事業である医学文献情報活動、教育研修活動、出版広報活動、年次統計調査、「医学雑誌総合目録」の改訂版発行を進める中で、見直すべきところは見直して事業を進める。また、事務局や各部の事務作業については可能な範囲で外注委託し、役員や部員の負担軽減を図る。さらに、これまで一部の会員に負担が偏りがちであった役員や事業部員についても、任期制や当番制の可能性も探り、多くの会員の協議会活動への参加を容易にしていきたい。

以上のことから、来年度の当協議会活動では必要な継続事業を進め、対外的にも広く協力連携していく中で、運営の主体は新旧世代、円滑に交替されることが最大の課題と考える。

議案Ⅳ．平成16年度事業計画（案）

1. 医学文献情報活動

- 「医学雑誌総合目録」2003年版の編集発行
- 「現行雑誌所在目録2004」の発行

2. 教育研修活動

- 研修会（セミナー形式）・勉強会の開催
- 関連団体の研究研修会への案内と参加奨励

3. 出版広報活動

- 会誌「病院図書館」の季刊発行
- ホームページの継続と内容更新
- 協議会の事業活動紹介の小冊子発行

4. 年次統計等の調査活動

- 年次統計と相互貸借の調査

5. 対外活動

- 関連諸団体との交流・連携
- 京都大学大学院医学研究科との「EBM 情報システム・ワーキンググループ」活動

議案Ⅴ．平成16年度予算

(収入の部)		(支出の部)		単位 円
費目	金額	費目	金額	摘要
前年度繰越金	2,154,256	総会費	100,000	選挙費用、諸書費用
会費	3,830,000			特別感謝贈礼・交通費
平成16年度		業務委託費	600,000	会員管理、会費請求、
@30,000×124				簿
@50,000×1		事務費	100,000	封筒印刷、銀行手数料、
平成15年度				他
未納		通信費	120,000	事務局・各部会連絡、
@30,000×2				会員通知、他
事業収入	638,500	交通費	550,000	役員会、幹事会、各部
会誌購読会費	516,000			会、JMLA近畿地区例
平成16年度				会、他
@6,000×78		事業費	4,700,000	
平成15年度		会誌発行費	2,600,000	会誌24(1-4)・送料、
未納				執筆料、他
@6,000×8		研修会費	400,000	定例研修・事例報告会
研修会費	122,500			・勉強会
定例研修会		医学雑誌目	1,200,000	総合雑誌目録2003年版
@2,000×30×1		録作成費		現行雑誌目録2004年版
@1,000×30×1		その他事業	500,000	15年度年次統計報告
事例報告会		対外活動費	200,000	交通費、他
@500×35×1		資料費	60,000	雑誌購読料、他
勉強会		資料管理費	50,000	病院協所蔵資料
@500×15×2				(2003年・2004年分)
その他		会誌費	150,000	会場使用料、他
その他		予備費	400,000	
広告掲載料	452,000	雑費	44,756	庶務費、接遇費
合計	7,074,756	合計	7,074,756	